

通明小学校との懇談会に、校長・教頭先生担任の先生全員が子ども達と食事をしてくださいました。



施設内虐待通告

園長 藤本光世

6月12日の10時に県こども家庭課の樋口係長と井口主任と中央児相の塚田課長が来園しました。その内容は、当園の中高生の指導が厳しいという匿名の通告があったので、中高生全員と職員に対して面接をして聞き取りを行うというものでした。面接の場所は、当園以外の学校や児相を使うというのです。

当園は、平成24年度から連続して施設内虐待問題にさらされています。平成24年度は匿名の通告2件と当園が報告した件、平成25年度は児相面接で児童から訴えがあった件を当園で再調査し報告した件でした。それぞれについて児相職員が数カ月をかけて子どもたちに面接して調査しました。その結果、平成24年度の2件の通告は虚偽であり、平成25年度の問題については、県の調査は「なかった」でしたが当園で再調査して「あった」と報告したものの、県の最終結論は「なかった」でした。

このような面接があるとどうでしょう。当園にとって様々な影響が考えられます。実際に学校からは、なぜ学校で面接をするのか、子どもが何か悪いことをしたのかと問い合わせが入っています。学校に児相が来て面接するのを嫌がっている子もいます。そして様々な憶測を生むのです。しかも、虚偽の通告者は匿名を隠れ蓑にして謝罪さえしないのです。

このことが分かっていたので、私から係長に質問しました。私「指導が厳しいという通告だけで児童や職員に面接をするのですか。」係長「それだけではやりません。しかし、通告の具体的な内容についてはお答えできません。」私「厳しいという中に、虐待と思われる事例があったということですか。」係長「それは言えません。」私「虐待があったという蓋然性があるということですか。蓋然性ですよ。何もなくて厳しいという指摘ではやらないのでしょうか。」係長「蓋然性ということであれば、それが疑われると言っても良いでしょう。今言えるのはこれだけです。」

当園の指導は厳しいでしょう。しかし、それは子どもの心を立て直すためであり、厳しさこそ愛情であります。子どもを思う慈愛の心によるのです。子どもの背景を思うと、それだけの厳しさがないと、子どもは変わらないのです。それほど、この仕事は厳しい仕事なのです。それを、子どもがどうなってもいい、施設がどうなってもいいという職員は、自分を守ることに汲々として、公平公正な厳しい指導ができないのです。見て見ぬふり、表面だけの指導（実は何も変わっていない）、

嘘とごまかしの指導、他人に丸投げの指導、実はまったく仕事をしていないのです。そして、子どもの逃げ道を作るのです。その指導を受けた子どもは高校を中退し、あるいは人生の道を外し、施設は子どもを指導できず混乱するのです。子どもにとって施設がホテル化するのはこのことです。それを、この6年間見てきました。それらの職員はみな自ら辞めていきました。

厳しくはあっても、その裏に正義と愛情があり、職員は虐待問題に対する当園の姿勢を昨年の事例から知っていますから、虐待に該当するような事例は無いと信じています。もし具体的に指摘されれば、こちらでも調査し、明らかにします。それは平成25年度の実例の通りです。

いったい、県や児相は当園の指導を調査してどうしようというのでしょうか。このことで当園の指導に圧力をかけようというのでしょうか。青谷副園長が子どもたちに言いました。「当園の指導は厳しいだろう。いろいろと感ずるところもあるだろう。だから、面接では何を話してもいい。すべてを話してきなさい。ただし、嘘は言うな。」当園は、何も隠すことはないのです。職員もすべてを話してくればいいのです。ただし、嘘はいけません。

係長に「厳しい指導」の指摘があったら、当園は反論させてもらいます、と話しました。係長は説明を、と言いましたが、もともと児童養護施設の仕事を理解していない方には、説明ではなく反論となることを見えているのです。その意味を込めて、「反論」と申しました。

当園は、今の指導を変えることはしません。今の指導により子どもたちが良くなり、将来の自立の道が開けてきているのです。当園は、これまで数度の虐待の実例をばねにして、生まれ変わってきました。それは、今の子どもたちの生活の様子に表れています。今の職員の、子どもたちのために尽くす姿勢に表れています。今回の面接で、児相や県はきっと当園の子どもたちの理解が進むでしょう。それはきっと当園のこれからの好影響を与えると思っています。

行事

復興のひまわり

副園長 青谷 幸治

2011年3月11日の東日本大震災後、2012年の8月に宮城県石巻市を訪れました。

まだまだ瓦礫の山がたくさんあり、道は傾き、津波の爪痕が残ったままの町になっていました。そして未だ数十人もの遺体が見つからないという大川小学校へも行きました。亡くなった小学生のお孫さんをもつおばあちゃんより津波の跡、庭先に突如咲いたというひまわりの種をいただくことができました。おばあさんは、その咲いたひまわりを見て孫が帰ってきたと思ったそうです。

私たちの仕事も児童の境遇は違えども他人事とは思わず、愛育園の児童にもこの大地震を機に災害に対する危機意識と防災への関心、情操教育としての取り組み。そして亡くなられた方々の供養になればと思い、この夏も児童・職員全員でひまわりの種を蒔きまし



た。遠く離れた長野から東北の方々に元気を届けたいと思います。この大地震を風化させないためにも毎年、愛育園の庭やグラウンドにたくさんのひまわりを咲かせたいと思います。

第二回漢字検定

保育士 富沢正樹

6月7日、当園を漢字検定準会場にしてから二回目の漢字検定を行いました。小学生から高校生まで17名と今回も大勢の児童が受験しました。



第一回目の漢字検定は14名中11名の児童が合格しました。受かった子は初めての漢字検定にドキドキした緊張と、それまでコツコツと勉強してきた努力が相まって、園長先生から賞状を受け渡された時には実に嬉しそうな顔をしていました。

残念ながら受からなかった子もいました。当時、小学三年生だった女の子はまだ習っていない漢字のあった8級へ果敢に挑戦し

ました。わずか4点足りずに惜しくも受からなかったのですが、今回再挑戦といった様子で8級に挑みました。他にも、前回、自信がなくて受けなかった子や更に高い級を目指して勉強を続けてきた子たちが受験しました。

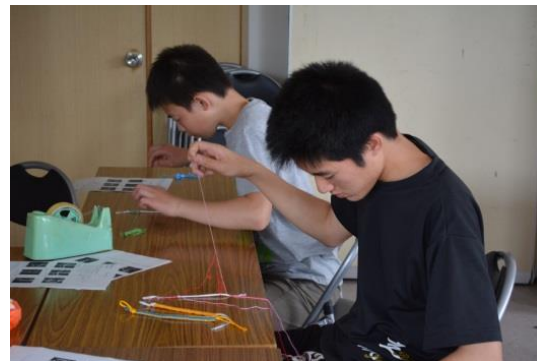
検定時間中のみんなの表情は普段見られない真剣な顔つきで、会場内に緊張感のあるとても良い雰囲気を感じました。結果が来るのは少し時間がかかるのですが、子ども達は「まだか、まだか」と気になって仕方がない様子です。

今回もたくさんの児童が合格して、それぞれの自信となり励みにしてほしいと願っています。

稲養生課外活動スタート

保育士 富沢正樹

昨年度、「稲荷山養護学校に通う児童が園の中でもっと有意義な時間を過ごせないか？」という所から稲養生育成委員会なるものを発足しています。やがて園を巣立つ日を迎えた時、身につけていた方が良い力をつけてあげる事を目標にやってきました。この1年でだいぶ成長したように思います。日課通りに動けたり、爪やヒゲなどの身なりを整えられるようになったり、洗濯も細目に出来るようになりました。将来を見据え



て漢字の読み書きもできた方がいいと毎日の学習に漢字の勉強を取り入れて漢検取得にも精を出しています。

ただ、土日の過ごしかたを見ると、依然暇を持て余してダラダラとしてしまうという姿が毎週のように見られました。そこで、昨年同時期に発足した小学生の課外活動に倣って、稲養生も土日を利用して稲養生課外活動を行う事にしました。

6月14日の始業式からここまで2回の課外活動を行ってきています。1回目は結束を強くするための「ミサガ作り」、

2回目は球技大会に向けての「特別野球特訓」を行いました。みんなが興味を持って楽しみながら参加できている様子を見て「もっと早くやれば良かった。」というのが正直な感想です。1学期はあと2回、「釣り竿作り」と「池釣り体験」を予定しています。稲養生のみんなには楽しみながら多くの事を学んで欲しいと思っています。また、こういった活動だけでなく、園で育てているひまわりや野菜の水やりを率先して行ったり、地域の清掃活動に参加して行ったりと、身近な所で人の役に立てるような課外活動も取り入れていきたいと考えています。

こういった取り組みの中で稲養生みんなの地力を引き上げて行けるように今後も活動していきたいと思います。

あおぞらファーム始動！！

あおぞらホーム 山口 亮



昨年度からあおぞらホームでは、新たな取り組みとしてあおぞらファームを始めました。愛育園の畑に自分達で野菜の苗を植えて水をあげ、育てるという難しさを体験し、収穫の楽しさを味わう意味合いを込めています。昨年は…苗を植えるところまでは良かったのですが、だんだんと水あげが続かなくなってしまったりする所もありましたので、今年こそは自分達で育てて、その育てた野菜を使ってホーム食をし

ようという強い気持ちを持って今年のおおぞらファームが始動しました。今年は、トウモロコシ、ナス、トマト、きゅうりに挑戦をしていきます。今は梅雨の時期で雨が毎日のように降ってはいませんが、雨の降らない日には中高生が中心となって毎日水あげに行っています。そんな中、中学生のSくんが水あげをしている時に、「水あげすぎると枯れてしまうからね」、「葉っぱが黄色くなってき

ちゃってるから水が少し足りないかも…」とさっそく水あげメンバーにアドバイスをしながら一生懸命暑い中何度も水をくみに行きあげている姿がありました。この姿、行動が続くように、職員も一緒に水あげや野菜の管理に行き夏には野菜がたくさん取れることを願っています。

父の日！！

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

今年も父の日に向け数週間前から子どもたちと今年は何をプレゼントを男性職員に送ろうか話をしてきました。今年は日常生活で使える物をあげたいと考え、デコレーションハンガーを作りにしました。高校1年生の女の子を中心に作成し、一人ひとり色も全て変えながら世界で1つだけのハンガーを作りました。もうひとつはメッセージカードもプレゼントしました。普段なかなか言葉では言えない感謝の気持ちもこのメッセージカードに記入している子どもたちがいっぱいいました。父の日の会では高校3年生の男の子が代表で挨拶をし、先生方へ子ども達からプレゼントを渡してもらいました。プレゼントを受け取った先生方の笑顔を見て子どもたちもとても嬉しそうにしていました！！

わいわいカルビさんからご招待いただきました。

保育士 富沢正樹

6月24日、川中島町今井にある「焼肉わいわいカルビ」さんに、当園の児童と職員をあわせ、54名をご招待頂きました。ご招待は今年で9年目になります。毎年お世話になり児童・職員一同本当にありがたく思っているのですが、店長さんからは「みんな(児童)が元気よく食べる姿をみて、私の方がパワーをもらっています。」とありがたいお言葉を頂戴し感謝の念が増します。

子ども達は「わいわいカルビ」さんのお気持ちに答えるように、次々にお肉を焼き、お腹を満たしていきます。この日はACパルセイロの選手も来て児童と交流をして下さり、子ども達にとっては夢のような一日だったのではないかと思います。私達職員もおいしいお肉をたくさん頂きました。ありがとうございます。



今年で9年目でしたが、子ども達にはこのご招待が「あたりまえの事」と思って欲しくないと思配しましたが、お店に入った時のアイサツや、食べ終わった後にお皿を重ねてテーブルを拭いておく。といった姿を見るにつけ、しっかりと感謝の心が育っている事を感じることが出来ました。

「わいわいカルビ」の店長さん、従業員さん、パルセイロのみなさん、楽しい楽しいお食事会をありがとうございました。

課外活動～2ヶ月の様子～

5月、6月の課外活動は合計7回実施する事ができました。

夏が近づくにつれ、子ども達も益々活動的になって来ました。公園遊びや、噴水遊び、春の遠足もあり大満足の子も達。

4月初、少し遊んだだけでへばっていた1年生

も、回数を重ねるごとに体力がつき、途中でへばることもなくなりました。少くらの雨だって、ヘッチャラです！！女の子は、草花を利用したネックレスを作るのがとても上手になりました。男の子は相変わらず、鬼ごっこやかくれんぼが大好きです。

ここ数回の活動は雨が心配されたり、雨が強すぎたりで、予定を変更する事も多々見られますが、子ども達は気にもせず、今日も活動をしています。だけどやっぱり・・・早く梅雨あけて!!

球技大会に向けて

球技大会に向け～野球の部～

4月の発足から早、3ヶ月が経とうとしております。5月の末日まで走りこみを続けた子ども達、今はボールを出して練習をしておりますが、その表情は自信にあふれています。ようやくボールを使える喜びを毎日感じている、そんな様子です。

昨年のバッテリーも今回ばかりは一時解散。というのも、2人してピッチャーを志望している為、今は競争の真っ最中です。組み合わせ抽選も終わり、今は三帰寮との初戦に照準を合わせ、黙々と練習に励んでいます。暇さえあればボールを握りキャッチボールをしたり、素振りをしたりする子ども達です。

課外活動係 酒井悠紀



野球監督 酒井悠紀

まだまだ、精神的に弱い子ども達ですが、ここから1ヶ月が本当の勝負であることを伝えていきながら、夏の暑さに負けないように過ごして行きたいと思います。

卓球練習2ヶ月

保育士 土屋海都

中高女子卓球練習は始め2ヶ月が経ちました。ここまであっという間にきました。筋トレから始まり、休みの日には練習の前に土手を走ったりと子ども達からしたら疲れるし嫌だなと感じることだと思います。だからこそやっています。試合になったとき嫌になったから、負けそうだからやめるなんてことは出来ません。苦しくてもやれば出来ること、耐える力をつけてほしいと思ひ練習をしています。毎日の練習を一緒にやり見ている中で一人ひとりの力がついたな、成長したなと思う場面が見られるようになりました。「試合に出たら全部勝ちたい！」と意気込んでいる子もいます。平日など出られる人数は限られていますが、出られるときには参加し頑張ってもらいたいと思います。個人で力をつけていくこともとても大事なことです。球技大会では中高女子みんなで力を合わせなければ勝っていくことは出来ません。お互い協力しあえるようにしていくために残りの時間を大切にしていきたいと思っています。

小学生卓球の練習が2カ月を過ぎて…

小学生卓球 監督 山口 亮



小学生の卓球の練習が始まり早2カ月が過ぎました。昨年は練習をしたものの行く事のできなかつた県大会…今年こそは県大会に行くという目標をもとにスタートしました。今年は1年生も新たに加わり、はたして上手くいくのだろうか…という不安もありましたが、いざ始まってみると1年生が真剣に玉あげを頑張り、2カ月経った今ではサーブ、レシーブもできるようになってきました。また、昨年までは玉あ

げも難しかったAさんも玉あげが50回近く、サーブもレシーブもできるような成長を遂げています。子ども達も自分のできる事が1つずつ増えていく中で卓球の楽しさや面白さを感じ始めています。長年やっている上級生はスマッシュの練習にも入りました。今までは我流で試合でも決める事のできなかつたスマッシュも職員と一緒に打ち方から直し熱心に取り組んでいます。子ども達の出来たという気持ちを認めつつ、それを伸ばしていけるように後残りの1ヵ月間、再度県大会へ行きたいという気持ちを確認しつつ共に頑張っていきたいと思っています。

そよかぜホーム食

そよかぜホーム長 石崎早織

6月27日は今年度初のそよかぜホーム食を行いました！！今年度は幼児さんを中心にしていま

すので、幼児さんでも楽しく作れるご飯はなんだろう??と調理の先生と相談しみんなでお弁当を作ることにしました。普段どこかへお出かけするときには調理の先生方に作っていただいた物を持って行っているのですが、どのように作られているかは見たことがありませんでした。そこで実際に子ども達におにぎりを作ってもらう体験をしてもらいました。おにぎり作りでは自分の好きなふりかけを選んでお椀2つを重ねてみんなでフリフリして上手に作る事が出来ました。丸くおいしそうなおにぎりを見て子どもたちも「上手に出来た〜♪」「すご〜い！！丸になってる！！」など歓声が上がりました。完成したところで自分達で作ったおにぎりをお弁当箱に詰めたり、調理の先生方に作っていただいたおかずをそれぞれ考えながら詰めていました。全員完成したところで外にビニールシートをひき昼食会ス



タートです。たくさんの先生方にも参加していただき楽しい昼食会になりました。自分達で作ったお弁当はいつもより格別においしかったようです♪

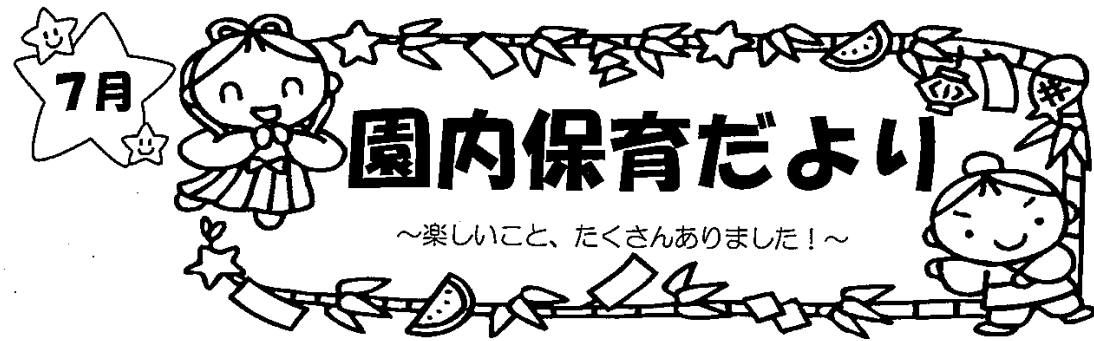
あおぞらホームだより

あおぞらホーム 近藤 典雄

うっとうしい雨の日が続いていますが、あおぞらホームの子供たちは元気一杯で過ごしています。あおぞらホームでは夏の球技大会に向けて小学生から高校生まで野球の練習に打ち込んでいます。学校から帰ってくれば野球の準備をして、一分一秒でも早くグラウンドに向かおうと先生方に「早く行こう」などと催促してきます。少し雲が出ているときは「今日は、練習できるかな」などと心配そうに話しかけてきます。残り1か月一つでも多く勝てるよう子供たちと頑張っていきます。

もう一つあおぞらの小学生の中ではやはっているのが将棋です。空いている時間があるとすぐに将棋盤と駒を出してきて勝負を誘ってきます最近ルールを覚えたばかりの子も先生や中高生と勝負しても、なかなか勝敗がつかないくらい強い子もいます。梅雨で外は雨でも、園の中では将棋盤を囲んで今日も名人戦が繰り広げられています。





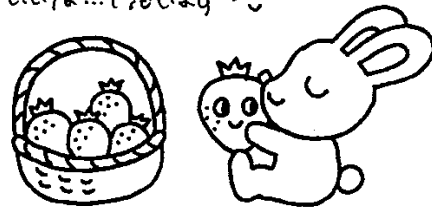
いちご狩りをしました♪

6/3(金)、園内保育で恒例の(?)いちご狩りに行きました。いちご狩りに行くことを前日に聞いていた子どもたちは、朝からソワソワ。楽しみにしていることがみんな保育者にも伝わってきました。出発の際、事務室にいらした先生方への「いちご狩りに行、てきまーっ☆」の挨拶がいつもより気合が入っていたと思いたのは、保育者の気のせい???

いちご狩りのハウスでは、係の方に挨拶をして容器に練乳を入れていただき、ペアになった保育者と一緒に、思いつくいちごの棚に向かって行きました。しどろくして「甘〜い♡」「おいしい♪」「こんなに大きい。あ、はは!」と、あちこちから声が上がりました♡

大きくて立派ないちごを狙う子、たくさん食べた子、中には練乳がなくなると、係の方にせせり何度もおかわりしている子もいました♡ また、自分で採ったおいしそうないちごを人にあげる優しい年長児の姿もありました♡

楽しくて美味しかったいちご狩り、また来年も行かるといいな...と思いつく♡



通明小学校の運動会に行きました

6/6(金)、通明小学校の運動会に行き、年長児2名が来入見として旗ひろいに参加しました。

少し前から園内保育では、年長児から未満児まで全員で、かけ、この練習に取り組んでいました。

ゴールで止まらずに走り抜けるなどの走り、ぶりに、運動会への期待もふくらみましょ♡

運動会では、規模の大きさに緊張している子もいましたが、立派な走りを見せてくれた年長児は、惜しみない声援を送る年中児・年少児・未満児、保育者たち。

愛育園の小学生を見つけて応援したり、調理の先生お手製のお弁当を食べたり、大盛り上げの日でした♡



★ 6月27日(金) 子ども達がいかに楽しませようとしていたプールの開きを行いました。朝登園すると庭にはプールが準備されており、プールを見るだけで子ども達はすでに大興奮♪ 園長先生が来る前に水着に着替え準備完了!! 園長先生に飛んでいた様子、プールの開きがスタートしました。みんなが楽しくやがらないようプールの活動ができるようお祈りをしていただきました。子ども達も静かに手を合わせお祈りに参加していました。プールの活動でどんなことを頑張りたいか聞かれ年長児のTちゃん「もどれるように頑張りたい!!」と発表していました。それぞれ自分達で決めた目標が達成できるように...そしてやがもなくプールの活動ができるよう見守っていきたいと思います。

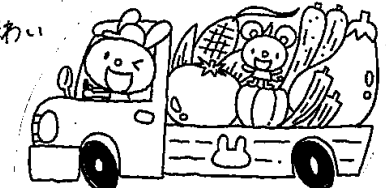


おいしい野菜がとれたよ!!

子どもたちが、お世話をしているモウリセット、ナスの苗が大きくなり、待ちに待った収穫の日がやってきました!! 毎週、草取りをしながら「もうすぐとれるかな♡」と期待をふくらませていた子どもたちは、自分の手で収穫することに大興奮♪目を輝かせていました。モウリは毎回一本、多い日は二本収穫でき、「とれがいいかな〜♡」と自分のお気に入りのものを見つけていました♡

しかし時には、他の子がとったモウリと同じくらい大きいのがいい♡と泣き出すことも...でもいくら探しても同じ大きさのものはもうありません。すると、その様子に気付いた年長さんが、自分のモウリを譲ってあげたのです!! 頑張って育てた野菜、大きいものをとりたいという気持ちはきっとどの子にもあったと思いますが、年下の子を思いやることができた、その姿には成長を感じました♡ 年長さん、偉かたね♡ こんなこともありつ、収穫の喜びを味わいながら、みんながおいしく頂きましたよ。

トマトやナスも、もうすぐ沢山収穫できそうです♡



まごころ・そよかぜホームだより

まごころ・そよかぜホームでは先日、今年度 2 回目のホーム食を行いました。今回は、なんと、蕎麦作り！！ということで、5つのグループに分かれて行いました。中高生を中心に、小学生、幼児さんも一生懸命になって蕎麦作りに挑戦しました。初めて触る蕎麦粉に、「ふわふわ〜！」「猫の毛並み見たーい！」なんて声が聞こえました。お水と合わせてコネコネするのも自分たちでやります。思っていたよりも力を入れなければならず、苦戦していました。さて、いよいよ切るとき、細くするのはなかなかうまくいかず、うどんのようにも見えましたが、、でもこれが手作りの良さでもありますよね。茹で上がりはなんだか短く、不恰好になってしまいましたが、味はとってもおいしく出来上がっていました。カレー蕎麦初めて食べましたが、おかわりする子が続出するほど大人気でした。



保育士 武井萌

いよいよ夏本番となってきます。暑さに負けず、今月の大きな行事、球技大会に向け、練習・日々の生活、頑張っていこうと思います。

調理方針

調理主任 中澤希衣

5月から調理主任をやらせていただくことになりました。正直私が主任で大丈夫なのかと、私自身とても不安に思います。しかし、そんなことも言っていられませんか。やるしかないのです。調理方針ですが、3つ上げたいと思います。

- 1、衛生管理を徹底し、時間通りに食事を提供する。
- 2、食育活動を活発的に行う。
- 3、チームワークを大切に！ 〈報・連・相〉



どれも大事ですが、3番目のチームワークを大切に！は、特に大事にしたいと思っています。一人一人がバラバラでは、時間に出せるものも間に合わない、気持ちばかりが焦りけがや事故につながってしまう、一人一人に余裕がなくなり周りをみることもできず、いつもできていることもできなくなってしまいます。新年度が

小学校運動会に作っていただいたトトロのキャラ弁。子ども達は、とても喜びました。

始まり、改めて全員が気持ちを一つにしてやっていかなければならないと思います。そのためにも職員同士よく話しその日あった事の報告や連絡、自分で疑問に思ったことを調理の中で相談しお互いに解決し合えるような、そんな雰囲気も作れるようになればいいなと思います。

主任として精一杯頑張りたいと思いますので、一年間よろしくお願いします。

愛育園の職員になって

調理員 伊藤慈子

このたび、ご縁があって5月中旬より愛育園の調理員として働かせていただくことになりました。私は結婚を機に前の職場を退職して以来、働くことは14年ぶりになります。

それまでずっと家族分の食事と、実家の手伝いで年に数回ですが大勢の食事をつくることのあるだけでしたので、こんな私に愛育園での調理員が務まるのかと、正直なところとても不安でした。ですが、そんな私に調理の先生方は優しく一つ一つ丁寧に毎回親切に教えてくださいました。年齢のせいにしてしまいますが、覚えの悪い私に先生方の貴重な時間と労力を頂いたことにとっても感謝しています。こんな私ですが、早く戦力になるよう、これ以上負担をかけぬよう日々頑張っていきたいと思います。



愛育園で働き始めて1ヶ月半になりました。働いてみて愛育園の調理室は、ガラスの引き戸のカウンター越しに食堂が良く見えるので、調理の片付けをしながらでも食堂での子ども達の様子や食事状況が良く分かり、とても家庭的で温かい感じがしました。だから、子ども達との距離が近く、自然に子ども達に声が掛けられるのでしょうか。私はまだ、全員の子どもの名前と顔を覚えきれていないので、努力して覚え、いろいろ教えてくださる調理の先生方のようにいつも優しく、時には厳しく子ども達と関わって行けたらと思います。子ども達にとって心もお腹も満たされるようなおいしいご飯をつくるように精進してまいります。

日々勉強することばかりでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうかご指導いただきますようよろしくお願い致します。



わいわいカルビの社長さんに、感謝の色紙と花束を渡しました。後ろはAC長野パルセイロの選手です。